

令和２年度第１回旭川市農業センター運営懇話会 会議録（要旨）

日 時 令和２年１０月２１日（水） 午後３時から午後３時４５分まで

場 所 旭川市農業センター ホール

出 席 者 （参加者）

因幡 淳一郎氏，内村 めぐみ氏，北原 一巳氏，谷本 守氏，

塚田 則和氏，土井 邦由氏，松本 英和氏，室崎 敏夫氏，

山崎 賢治氏，吉原 寿一氏（代理）（五十音順）

（市 側）

細矢農業センター所長ほか農業センター職員５人

会議の公開・非公開の別 公開

傍 聴 者 なし

会議資料 資料１ 令和２年度（２０２０年度）花菜里ランドのあらまし

資料２ 令和元年度旭川市農業センター試験成績書（概要版）

資料３ 令和２年度旭川市農業センター試験課題等一覧

資料４ 今後の農業センターの方向性について

議 事

【進行役】

次第に従い進めていきます。

まずは、令和２年度旭川市農業センターの事業概要について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料１から資料３までに基づき、農業センター所長から概要を説明）

【進行役】

ただいま、事務局から昨年度及び本年度の事業概要の説明がありましたが、御質問や御意見等がありましたら、お願いします。

【参加者】

（特になし）

【進行役】

それでは、次の議題に移ります。

今後の農業センターの方向性について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料4に基づき、農業センター所長から概要を説明)

【進行役】

ただいま、事務局から今後の農業センターの方向性について説明がありましたが、御質問や御意見等がありましたら、お願いします。

【参加者】

試験研究について、古くから青果連の方で農業センターの職員と毎年打合せをして、現場にいる人たちが一番困っていることを試験課題としています。身近にあることから互いに行き来し、研究内容の見聞きや栽培の状況の確認ができていますので、これからも試験研究は継続してほしい。試験研究を外部へ委託すると散らばってしまうので、これからも青果連と相談しながら継続してほしい。

新規就農者について、今年当農協管内に2名の新規就農者が入り、今後も増やす予定でいます。研修場所が少ないので、基礎的な知識向上のためにも新規就農についての研修の強化をお願いしたい。

土壌分析や残留農薬分析については、従来どおりにやっていただきたい。今年、土壌診断手数料の料金が値上がりし利用状況はまだ分からないが、値段が上がったことは仕方ないことで、当農協としても生産者に対して土壌の基礎的な検査をすべきとしていきたい。残留農薬分析については、平成18年からポジティブリストができており、絶対やらなければならない事業の一つです。農業センターで行う以前は、青果連の部会で生産者が自腹を切ってホクレンの農総研などに対しお金をかけてやっていました。農業センターで行うこととなり、料金的なことも緩和され生産者は喜んでいると思われますし、かなりの頻度でやっていただけるということでこれからも続けてほしい。

都市と農村の交流関係で、JAで全道大会があり、その中で準組合員との取組として家庭菜園の講習会がありますが、農業センターで行う家庭菜園の講習会について、JAで案内し農業センターの職員が講師を務めるなどの方法で連携をとって行うこともできるのではないかと思いますので、検討をお願いしたい。

【進行役】

ありがとうございます。他に御意見や御質問等はありませんか。

【参加者】

ただいま大方の話したいことは述べられたと思います。

資料によると行財政改革の課題ということで、現状行っている試験研究や分析の外部化の課題を求められています。しかし、試験研究や農薬の分析は、我々現場サイドからしてみれば、野菜を取り扱う者として安心・安全に向けての取組で大変重宝しており、こうした試験研究や分析に改革を求めることには疑問を持っています。今行っている試験研究、土壌分析、残留農薬分析については、今後も継続することを願いたく強く要請します。

【進行役】

他に御意見等がありますか。

【参加者】

土壌分析と農薬残留分析について、論点として旭川市以外の試料の受け入れとありますが、どの辺までを考えていますか。

【事務局】

実際に需要があるかどうかを確認していませんが、想定としては農協が地域をまたぐところのものについて検討する必要があるものと考えています。

【参加者】

農協がまたぐということは、近隣ということですか。

【事務局】

具体的に話のあるものではありませんが、旭川市の近隣の地域になろうかと考えています。

【進行役】

他にありませんか。

【参加者】

土壌分析は、是非とも引き続きお願いしたいと考えています。

私も稲の育苗床の土の土壌分析を毎年実施していますが、土壌診断の結果、適正施肥の推進ということで施肥設計を大きく変える指導を受け、半信半疑でやってみたが、今までよりも良い苗ができました。農業センターで施肥の指導をしているのか、普及センターとの協同でやっているのか。

【事務局】

分析を行う時期により、普及センターに協力していただくものと、農業センターで直接診断票を作るものに分かれます。

秋から冬にかけてサンプルを持ち込み集中的に分析するものについては、普及センターの方

に分析結果を渡して、普及センターの方で診断票を作成し最終的に施肥指導に至ります。

農協の施肥相談会で指導を受けたということでしょうか。

【参加者】

農協です。農業センターの分析結果を普及センターに渡して、土壌分析の結果による施肥方法を農家に伝えるということですか。

【事務局】

それ以外に、夏場に緊急で生育の様子がおかしいと直接生産者から持ち込まれたものについては、農業センターで対応しています。

【参加者】

農業センターと普及センターが連携して行っているということが分かりました。

【進行役】

最後になりますが、その他について、この機会に御意見等がありましたらお願いします。

【参加者】

農業センターについては、常に関心を持って見えています。農業センターは市民の大切なお金を使ってやっているので、もっとたくさんの市民の人に利用してほしいと思っています。10年くらい前まではたくさんの市民が来ていたが、最近は市民の利用が減少していると感じています。施設があり大切な市民のお金を使っているのに、まだまだ利用されるようにしなくてはなりません。農業センターの職員は一生懸命やっていると思うが、このような施設は、ある程度の経済効果が必要だと思われます。農家の方にとっては施設があった方が良いのは当たり前だが、年間で職員の給料を含めて1億7千万円余りかかっているとも言われているのだから、ある程度の経済効果が必要ではないかと思います。

【進行役】

経済効果が必要だという御意見について、事務局に伺いたい。

【事務局】

非常に貴重な御意見をいただき、ありがとうございます。

経済効果については、農業センターは農業という産業を支えるための施設なので、職員一同農業センターで行っている試験研究、農家へのアドバイス、助言、指導及び様々な分析の結果が生産現場に生かされ、それが生産の安定化につながるということを第一に目指して業務を進めているところです。

もう一つ、市民の方の利用が以前に比べると減っているということも受け止めているところ

ですが、それについても本日皆様から御意見をいただいた上で、今後の農業センターの方向性に関わり都市と農村の交流機能などについて検討していく中で、どのように施設を維持管理し、市民の皆さんの利用を増やしていくかということも検討していかなければいけないと考えています。

【参加者】

私は、誰よりも農業センターとのつながりが深いと思っており、皆さんにも大いに意見を出してほしいと思い発言をしました。

【参加者】

経済効果というものは、目に見えて目先ですぐ出るものもありますが、各農協や生産者の方々が、土壌分析、品種試験、残留農薬分析、それを利用して物を販売して旭川市の野菜の売上が上がっているということで、その担い手の一つに農業センターがあるということになれば、効果は十分にあると思います。

それから、一般市民に関しては、以前農業センターでイベントがありました。お金も時間もかかるので今後できるかどうかは分かりませんが、事務局の方で考えて是非お願いしたいと思っています。

【進行役】

今後も検討を続けていくということです。

それでは、全体を通じまして、何か御意見等がありましたらお願いします。

【参加者】

旭川市農協の青果物の今年度の売上はどのくらいですか。

【参加者】

旭川青果連全体の野菜の売上は、計画では１６億円としています。経済的な効果が見えないとの意見がありましたけれど、野菜の生産高が１６億円あるということに強く結びついていると感じています。

【参加者】

昨年よりも目標額が多いように思われますが。

【参加者】

昨年の旭川青果連の取扱いの実績は１５億９千万円ほどで、今年の計画は３農協合わせた金額でおおよそ１６億円の計画となっています。

【進行役】

それでは、最後に何か御意見等がありましたらお願いします。

【参加者】

（特になし）

【進行役】

ないようですので、以上をもちまして議事を終了させていただきます。